

(論文の要旨)

## 大学の体育科長期研修における現職教員の成長に関する実証的研究

住本 純

本研究は、以下の構成である。

序章 研究課題と方法

第1章 現職教員の長期研修に対する参加契機や動機

第2章 現職教員の大学における体育科長期研修での成長プロセス

第3章 長期研修への参加契機や動機と研修経験や学びおよび成長プロセスとの関連

結章 本研究の結論及び今後の課題

### 序章 研究課題と方法

近年、学び続ける教員の必要性が指摘されており、教員に採用されて以降の現職教員研修を通じて成長が求められている。その中で、大学における長期研修での成長が報告されているものの、課題として、長期研修での経験や学びを通じた経時的変容を捉えた詳細なプロセスやそのプロセスの共通性、個別性について、ほとんど検討されていないことが挙げられる。また、研修によって得られる経験や学びと成長プロセスには、研修参加教員の参加契機や動機から捉えた研修ニーズや参加意欲の影響も否定できない。しかし、大学における現職教員研修での成長とその研修生の研修ニーズや参加意欲の関連を実証的に検討した研究は見当たらない。これらのことは、体育科教育学分野でも同様である。これらの課題を解決することは、大学と連携した教師教育プログラムやそれを機能させるシステムを構築していくために重要な知見の蓄積に貢献することとなる。加えて、現職教員が体育授業に関する成長を遂げていくために必要な大学における現職教員研修での経験や学び、それらを促す要因を解明できると考えられる。

そこで本研究は、大学の体育科長期研修に対する参加契機や動機と研修経験や学びおよび、その成長プロセスとの関連を実証的に検討することとし、以下の3つの目的を設定した。

- (1) 長期研修に対する参加契機や動機を明らかにする。
- (2) 長期研修での経験や学びとその成長プロセスを明らかにする。
- (3) 長期研修に対する参加契機や動機と研修経験や学びおよび成長プロセスとの関連を検討する。

(論文の要旨)

上記の目的に適した研究方法を導き出すために、研究領域を超えて、現職教員の成長に関する先行研究の成果や課題を明らかにしていくこととした。そこで、Randolph (2009)の質的な先行研究レビューにおける方法論を援用し、現職教員の成長に関する研究動向を分析整理した。その結果、多くの先行研究では、「学習や経験」、「研修」、「省察」といった教員の学習プロセスをリサーチクエスションとしていた。さらに、それらのリサーチクエスションとの整合性から質的研究方法が多く用いられていることが明らかとなった。その結果から、本研究で用いる研究方法について検討を加え、質的研究方法である継続的比較法と M-GTA を選択することとした。

## 第 1 章 現職教員の長期研修に対する参加契機や動機

第 1 章は、現職教員の長期研修に対する参加契機や動機を検討した。対象は 11 名の長期研修に参加した現職教員であり、インタビューによってデータを収集した。そのデータは、継続的比較法によって分析された。分析の結果、現職教員の長期研修への参加動機や契機から、長期研修に対する多様な研修ニーズや参加意欲の高低が明らかとなった。研修ニーズの中には、【専門的な学びの機会】や【自己の授業を相対化する機会】を参加動機とした個人的ニーズと【他者からの促しや支援】や【年齢による立場の変化】といった参加契機となった組織的ニーズが示された。また参加意欲の高低や参加動機や契機が能動的か受動的かによって振り分けた結果、研修生は、a タイプ (受動的・消極的)、b タイプ (受動的・積極的)、d タイプ (能動的・積極的) の 3 つのタイプに集約されることが確認された。

## 第 2 章 現職教員の大学における体育科長期研修での成長プロセス

第 2 章は、現職教員の大学における体育科長期研修での経験や学びと成長プロセスについて検討した。対象は第 1 章で対象となった 10 名であり、インタビューによってデータを収集した。そのデータは、M-GTA によって分析された。分析の結果、[迷いやジレンマ]、[研修経験からの学びと実感]、[客観的データを用いた授業分析の重要性]、[授業内容やスタイルの維持]、[体育授業観の問い直しや変容]といった多様な経験や学びが明らかとなり、研修生の共通性や複雑性のある【成長プロセス】を示すことができた。加えて、その成長プロセスの【基礎的条件】として、[授業を追究できるコミュニティ]や[環境的条件]の重要性が明らかとなった。また成長プロセスを経ていくことで、研修生の体育授業改善に向けた【コミットメント】が高まることが示唆された。

### 第3章 長期研修への参加契機や動機と研修経験や学びおよび成長プロセスとの関連

第1章の目的(1)と第2章の目的(2)の結果を受け、第3章では、目的(3)の長期研修への参加契機や動機による研修生のタイプと長期研修での経験や学び、その成長プロセスとの関連を検討した。検討の結果、aタイプ(受動的・消極的)の研修生は、複雑的な成長プロセスを辿り、一方で、bタイプ(受動的・積極的)とdタイプ(能動的・積極的)の研修生は、直線的な成長プロセスを辿っていったことが明らかとなった。

上記のことから、研修生のタイプと研修経験や学びおよび成長プロセスについて、関連していることが示された。しかしながら、すべての教員が最終的に成長していたことから、研修への参加動機や契機から捉えた研修ニーズや参加意欲に関係なく、教員が成長していくために必要な経験や学びとプロセス、それらを支える基礎的な条件が示唆されたといえる。他方で、大学における長期研修に対して、受動的・消極的なaタイプの教員であっても、研修終了時に体育授業への【コミットメント】を高めていたことから、大学における研修であっても一定の手続きと条件を整備していくことで、体育の授業づくりや授業研究に対する関心や授業を実施する力量の形成に貢献し得ることを確認できた。

### 結章 本研究の結論及び今後の課題

結章では、本研究の結論と今後の課題について述べた。本研究から得られた知見は、以下の4点である。

- (1) 長期研修の参加契機や動機から、多様な研修ニーズと参加意欲が明らかとなった。  
さらに、その多様な研修ニーズと参加意欲から、長期研修に参加する現職教員が3つのタイプに集約されることが示された。
- (2) 大学の長期研修における経験や学びおよび直線的な成長プロセスと複雑な成長プロセスを示すことができ、多様で複雑な成長プロセスの存在が明らかとなった。  
また一方で、長期研修で成長していくために必要な経験や学びとそれらを促した要因として、[迷いやジレンマ]に対応した研修内容の設定すること、[授業を追究できるコミュニティ]の存在や時間的余裕といった[環境的条件]、<客観的データを用いた授業分析における省察経験>から<学習者の実態や変化>や<指導方法や教材内容に関する学び>を得ることが示唆された。これらの結果は、朝倉・清水(2012)や(朝倉, 2016)で示された長期研修が信念変容といった成長をもたらすといった先行研究を支持していた。しかし、先行研究(朝倉・清水, 2012; 朝倉,

(論文の要旨)

2016)では、研究方法の限界から捉えることのできなかつた複数教員の経時的なデータを収集分析し、長期研修での成長プロセスの個別性や特異性、共通性を浮き彫りにした。

(3) 大学での体育科長期研修が現職教員の体育授業改善に向けた【コミットメント】を高めることが示唆された。この結果から、一定の手続きと条件を整備していくことで、体育の授業づくりや授業研究に対する関心を高め、体育授業研究に動機付けされることが確認できた。先行研究(四方田, 2013)では、体育授業へのコミットメントの高い教員として、長期研修を経験した教員をサンプリングし、コミットメント形成の要因を明らかにしている。しかし、その長期研修での何がコミットメントを高めていたのかについては研究対象とされていなかった。本研究において、体育授業へのコミットメントを高める要因となった長期研修の経験や学びとプロセスが明らかとなった。

(4) 長期研修に対する参加契機や動機から示された教員のタイプとそれら教員の長期研修での成長プロセスの関連が明らかとなった。しかしながら、上記の2で示された経験や学び、条件を満たすことで、教員のタイプに関係なく、体育科長期研修での成長を可能にしていくことが明らかとなった。

今後の課題としては、本研究は、長期研修という学校現場から距離を置いた大学での長期研修の効果を対象とした。そのため、研究結果を現場に適用する限界が考えられ、この知見を学校や教育委員会ベースの公的な研修や私的な研修にどのような示唆を与えるのかを検討していかなければならない。また今回の知見は、主として小学校の教員を対象としている。そのため、中学校や高等学校の教員を対象とした場合に今回の結果が該当するのかは不確定な点が多いと考えられる。今後は、中学校や高等学校の教員を対象とし、校種に分けて検討を加える必要性もあるだろう。加えて、これらの現職教員の研修後を追跡調査することによって、長期研修を検討するための新たな視点が得られると考えられる。なぜなら、大学での長期研修に参加できる現職教員は、参加人数が制限されるため、研修受講者がどう成果を還元していくかが問われているからである。

上記で挙げられた課題を基に、知見を蓄積していくことが大学と教育委員会や学校による連携・協働を持った効果的な現職研修プログラムの構築にとって、重要になるであろう。